

## 第1回会議のふりかえりとワーキンググループの進め方

- メディア間連携、行政間連携、行政・メディア連携が必要
- 単一サービスだけでは避難へつなげることが困難。
- 情報の単純化が必要
  - 複数の（行政）機関からの多すぎる情報。飽和による無理解の解消必要。
  - 「分かりやすさ」のため、咀嚼による単純化が必要
- 情報発信（箇所）の一元化
- 情報の単純化、活用の向上（引いては行動の契機となる）のためには情報の精度向上が必要
- 情報の個人カスタマイズ化による提供が、行動につながる
- 切迫性・リアリティの追及必要。テキストだけでなく、画像・カメラ情報、地図情報が優れている
- ローカライズ情報、地域の方がピンとくる地名情報の活用、地域密着性の高いメディア媒体の活用が個人を促す

- 何をすればよいかを適切に伝える必要
- 高齢者に対する情報メディアアプローチ  
視覚的な情報(TV)活用の優位  
フィーチャーフォン活用が有効である一方、スマートフォンを利用しやすい環境にしていくことも重要
- スtock情報(ハザードマップ等)の適切な活用のための情報提供のタイミングと手段を考えるべき
- 緊急速報メールのように、真に重要な情報に対する住民の理解が必要
- デマ情報には、公式情報がしっかりと発信することが重要。  
プロが情報をしっかりデリバリーすることが効果的。
- 専門家などによる情報の解説が必要
- インバウンド対応も必要

「住民一人ひとりが、  
適時適切に災害情報に得て、  
自らの意思で行動する（避難する）」  
社会を実現する。

## <問題点>

## <課題>

情報を知らない

課題①: 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは？

- ・情報弱者への伝え方

情報が分からない

課題②: より分かりやすい情報提供のあり方は？

- ・より分かりやすい情報提供のあり方
- ・有効なハザードマップ情報の提供方法
- ・多すぎる情報への対処はどうすべきか？

情報を得ても逃げない

課題③: 住民に切迫性を伝えるために何ができるか？

- ・住民に切迫性をいかに伝えるか
- ・どのように水害情報を伝えるか
- ・水害情報においてトリガー情報は何か

# ワーキンググループ(WG)の進め方

WG日程、各日において、前半は、各団体による意見発表(各回5団体程度)、  
後半は、3つの課題をテーマにして議論  
ただし、各回のテーマは緩やかに設定、他のテーマに及ぶことも可

## <第1回個別WG>

意見発表:新潟県見附市、常総市防災士連絡協議会、twitter Japan(株)、  
(一財)マルチメディア振興センター、  
(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)  
議論テーマ:情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは?

## <第2回個別WG>

意見発表:道路局・(一財)道路交通情報通信システムセンター、  
全国地方新聞社連合会、日本放送協会、  
(一社)日本ケーブルテレビ連盟、(一社)日本民間放送連盟  
議論テーマ:より分かりやすい情報提供のあり方は?

## <第3回個別WG>

意見発表:NPO法人 気象キャスターネットワーク、(株)エフエム東京  
Google、ヤフー(株)、LINE(株)  
議論テーマ:住民に切迫性を伝えるために何ができるか?

なお、WG日程を追加する場合もある。

# WGをすすめるにあたっての議論分類①

多様な団体が、多様な立場で、多様な情報を扱うことから、議論の発散を防止するため、出てくる意見を以下の考え方で分類

<課題に対する解決策を、情報の流れからの分類>

